

解答・解説

凡例および注意点

① = 大問番号 ❶ = 段落番号 ❶ = 文番号

解答部

_____ = 正解部分
() = 省略可能
/・[] = 直前の語句との入れ換え可能

解説部

㊦ = 主語 ㊧ = 動詞 ㊨ = 目的語 ㊩ = 副詞 など
「 」 = 訳（基本は直訳）、あるいは強調
() = 省略可能、あるいは補足・別表現
【語句】 = 該当箇所の重要語句
[|] = 発音。左側が発音記号。右側が目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント
⇒ = 派生語・反意語 など
㊰例 = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする
【文法】 = 該当箇所の重要文法事項

日本語訳部

文構造にできるだけ忠実に、自然な日本語を心がけた

重要語句確認部

㊱ = 名詞 ㊲ = 動詞 ㊳ = 形容詞 ㊴ = 副詞 など
□ = チェック欄
[] = 発音記号
「 」 = 意味

解答

1

- 問 1 コンピューターのプログラムを、複雑な記号ではなく、英単語を使って書くことができるようになれば
- 問 2 (A)
- 問 3 (イ) (C) (ウ) (A)
- 問 4 複雑な科学の概念を簡単な言葉で説明する能力に、ユーモアのある個性が加わって、彼女は人気の講師となった。
- 問 5 mathematician
- 問 6 (E)、(F) (順不同)

解説

凡例： ❶ = 段落番号、❷ = 文番号

- 問 1 問題文を見ると日本語で説明する記述問題に思えるが、該当下線部を見ると if 節の内容を訳せばよいとわかる。問題文の条件「so が表す内容を具体的に明らかにして」を満たすことと、自然な日本語になることを心がけて解答する。

下線部(1) If so, 「もしそうであるならば、」の so は前文の内容を代用する副詞で、ここでは直前の (if) it would be possible to write a computer program using English words instead of complex symbols がその具体的な内容を表している。これを訳せばよい。

冒頭の it は形式主語で、真主語は to 不定詞 (名詞的用法) の to write 以降。using は、直前にコンマはないが、分詞構文の付帯状況のように「～して、～しながら」の意味でとらえればよい。直訳すると、「(もし) 複合的な記号の代わりに英単語を用いて、コンピュータープログラムを書くことが可能かもしれない (ならば)」となる。これを自然な日本語にする。なお、形容詞 complex 「複合的な」は、否定的な含みのない「複雑な」の意味で訳せることが多い。complicated 「ごちゃごちゃした、複雑な」のイメージと対比して覚えておこう。
- 問 2 空所選択の問題。代入して、文脈が論理的に正しいかを意識しながら解答する。

下線部(2) her mother did not get angry, but offered her daughter a (ア) は「彼女の母親は怒ることなく、娘に (ア) を提示した」の意味。この前に示されているエピソードである「グレイスは家じゅうの時計を分解して、組み立て直すことができなかった」ことに対して、「母親は怒ることなく、娘に (ア) を提示した」のである。

語法、句読法的に大きなヒントが2つある。1つは空所直前の不定冠詞 a 「1つの、とある」で、初出の名詞に用いられ (既出の名詞には定冠詞 the がつく)、必要があれば

- 具体的な説明がそのあとになされる。もう1つは空所直後のコロン (: 「すなわち」) で、このあとには、コロン直前の内容が具体的に示される。よって、コロンのあとの内容から空所の内容を類推できる。

空所直後の She could have one of the family clocks for her experiments. は「彼女 (グレイス) は、自分の実験のために、家族の時計の1つを手に入れることができた。」の意味。つまり、「家じゅうの時計を分解された母親が、娘の実験のために時計を1つ与えた」ことを表す名詞を選ぶ。時計をすべて与えたのでもなく、まったく与えなかったのでもないことから、(A) compromise 「妥協 (案)、譲歩」を提示したと考える。(B) lesson 「教訓」、(C) punishment 「罰」、(D) task 「課題、仕事」はいずれも、「時計を1つ与えた」ことを表さない。
- 問 3 空所選択の問題。正解の最大の根拠は、代入して文脈的・内容的に正しくつながること。空所前後の内容の正しい理解が大切になる。

下線部(3) The respect that she earned in the Navy was so great that one of its ships now bears her name. は「彼女が海軍で得た敬意はとてもしばらしかったので、海軍の船の1隻は現在、彼女の名前をつけている。」の意味。最初の that は関係代名詞 (目的格なので省略できる) で、2番目の that は (so ~ that ... 構文) の一部。

上記内容を念頭に、選択肢を代入して正誤判断するのが実践的。16 すべての組み合わせの解説は紙面の関係で割愛するが、「英文は簡潔で正確なものが好ましいとされる」ことを重要な指針として持っておこう。正解文は You can see (イ: the degree of) respect she earned in the Navy (ウ: from the fact that) one of its ships now bears her name. 「彼女が海軍で得た敬意の程度は、海軍

- の船の1隻が現在、彼女の名前をつけていることから、理解できる。」となる。動詞 can see の目的語は the degree of respect she earned in the Navy 「彼女が海軍で得た敬意の程度」で、本文中にはあった関係代名詞の that が省略されている。from 以降は副詞句。the fact that ~ の that は (同格) を表し、「～ということ、～という事実」の意味になる (the fact = ~ が成立し、～の部分には節が来る)。**【暗例】**I was surprised by the fact that the band had already broken up. 「そのバンドがすでに解散していたことにびっくりした。」

空所 (イ) に (A) how 「どのように、～の様子」、(B) the fact that 「～ということ、～という事実」、(D) why 「なぜ、～の理由」をそれぞれ代入すると、文法的に、respect she earned in the Navy 「彼女が海軍で得た敬意」は動詞 can see に続く目的節の主語で、空所 (ウ) には動詞が入ることになる。内容的に、少し単純化して訳すと、「[(A) どのように彼女への敬意が / (B) 彼女への敬意という事実が / (D) なぜ彼女への敬意が]、船が彼女の名を冠している (ウ) (かが、あなたにもわかるだろう)」となる。ここで (ウ) の選択肢を見ると、(A) from the fact that 「～という事実」は動詞を含まず文法的に不可。(B) reflected the fact that 「～ということを反映した」、(C) resulted from the fact that 「～ということに原因があった」、(D) was shown that 「～ということを示された」の意味。どの組み合わせも、本文下線部の「彼女が敬意を受けていたから、船に彼女の名前が冠された」という因果関係を簡潔に説明していない。なお、問題文の主語 You は「(一般的な) 人」を表し、とくに訳す必要はない。
- 問 4 日本語訳の問題。内容的に過不足なく、自然な日本語になるよう注意する。また、とくに指示がなければ、代名詞などは具体的な内容に言い換えて、できるだけ、解答だけで意味が通じることを心がける。

下線部(4) This ability to explain things combined with her humorous personality made her a popular lecturer は無生物主語の構文で、主語の中心は this ability 「この能力」。この具体的な内容は、直前の a talent for explaining complex scientific concepts in simple terms 「複合的な科学的概念を単純な用語で説明するための才能」を指す。この名詞 this ability を修飾するのは、形容詞的用法の不定詞 to explain things 「ものごとを説明するための」(a talent ~ の言い換えとなる) と、過去分詞以降の combined with her humorous personality 「彼女のユーモアのある個性と組み合わせられた」の2つ。下線部を直訳すると、「ものごとを説明するための、彼女のユーモアのある個性と組み合わせられたこの能力は、彼女を人気のある講師にした」となる。具体的な内容を主語に付け足し、自然な日本語にする。
- 問 5 代名詞の内容理解を確認する記述問題。該当部より前の部分から、文法的・内容的に正しいものを絞り込む。

下線部(5) one 「1つ」は代名詞だが、one は it と違い、不特定の名詞1つを表す。**【暗例】**I've lost my eraser. I need to buy one. 「消しゴムをなくしてしまった。1つ買わなくては。」 My favorite coat is gone. Maybe Yui wore it to the party. 「お気に入りのコートがなくなってし

- まった。たぶんユイがパーティに着ていったのだ。」下線部を含む文 Maybe a smartphone could be used only by a mathematician, and only by a male one at that! を確認すると、直前に現れる名詞は a mathematician 「(不特定の) 数学者」なので、これが正解。and ~ at that は「それに (加えて) → さらに、おまけに」を意味する、口語でもよく用いられる表現。only by a mathematician と、それに続く only by a male one (= mathematician) at that を見比べると、加えられた male が強調されることになる。「数学者だけによって、そのうえ男性 (の数学者) だけによって」という意味。
- 問 6 本文内容との一致・不一致を選ぶ問題。内容が一致すれば ○、一致しなければ ✕ をそれぞれの選択肢の終わりにチェックしていき、最後に問題文の指示にしたがって、選択肢冒頭の記号に解答するのを習慣付けるとよい。不一致を選ぶ問題での混乱を避けられる。

(A) Her study of philosophy enabled Hopper to bring about technological innovations. 「哲学を学んだことによって、ホッパーは技術革新をもたらすことができた。」 ✕ ホッパーが哲学を学んだという記述はない。【語句】philosophy [fə'lɒsəfi | フィラソフィ] **【名】**「哲学」、enable [en'eɪbl | エネイブゥ] ○ to do 「○が～するのを可能にする」、bring about ~ 「～をもたらす、引き起こす」、innovation [ɪnə'veɪʃən | イノヴェイション] **【名】**「革新」

(B) Hopper often found it unprofessional to simplify the complexities of science for ordinary people to understand. 「ホッパーは、ふつうの人々が理解できるように科学の複雑さを単純化することは、専門外だと思うことがよくあった。」 ✕ **【4】**最終文、Hopper still had the ability and the desire to explain her work to non-specialists. 「ホッパーはそれでも、非専門家に自分の仕事を説明する能力と意欲を持っていた。」に一致しない。【語句】find ○ C 「○がCだと気づく〈知覚動詞〉」(※ここでは、○が形式目的語の it で、真目的語は to simplify 以降を指す)、unprofessional [ʌn'prɒfəʃənl | アンプロフェショナル] **【形】**「専門外の」、simplify [sɪm'pləfaɪ | スィムプリファイ] **【動】**「単純化する」⇒ simple **【形】**「単純な」、complexity [kəm'pleksəti | コムプレクスイティ] **【名】**「複雑さ」、ordinary [ɔ:'rdənəri | オーディネリ] **【形】**「ふつうの」

(C) Hopper seldom left her laboratory. 「ホッパーは、研究所を出ることがほとんどなかった。」 ✕ **【4】****【3】** While others might have been content working in a laboratory, she strove to popularize science and engineering for the public. 「研究所の中で働くことに満足しているだろう人がいた一方で、彼女は一般のために科学と工学を大衆化させることに尽力した。」に一致しない。others と she が while で対比されていると判断できる。【語句】seldom [seldəm | セッドム] **【副】**「めったに～ない〈準否定〉」

(D) Hopper was the kind of person who would generally follow what others were doing. 「ホッパーは、たいてい他人がしていることを後追いつくぐいの人だった。」 ✕ **【5】****【2】** の従属節中、~ she hated when people